



今井小だより

横浜市立今井小学校
令和4年2月28日
学校だより3月号

学校教育目標：かがやいている子 「自分大好き！今井大好き！」

一年を振り返って

学校長 森脇 信行



調理室前のふきのとう

令和3年度は分散登校等、コロナ対応に追われながらも、2度のオリンピック・パラリンピックに心を踊らされました。北京オリンピックでは、私が保土ヶ谷区西谷中学校在勤中に在学していた、スノーボードハーフパイプの戸塚優斗選手を個人的に応援していました。この種目では、平野選手の逆転金メダルに沸きましたが、平昌オリンピックで怪我をして途中欠場になった、戸塚選手が無事に競技を終えたことにほっとしました。私は、点数や勝敗でなく、怪我や事故に極限まで向き合っ、戦っ

ているアスリートたちの努力とその勇気に感動を覚えます。

そんな慌ただしい1年となりましたが、いつの間にか、修了・卒業の月を迎え、残すところあとわずかになりました。6年生の教室には、卒業までの登校日の掲示があり、残り少ない小学校生活を大切にしようという気持ちが伝わってきます。学年末という節目は、子どもが進学や進級に対する心構えを作る大切な時期となります。これまで自分が積み重ねてきた学び、仲間と築きあげた絆など、かけがえのない経験に自信をもって4月から始まる新しい生活に向けた準備をしていってほしいと願っています。学校も子どもたちのこの一年の成長を、次へのさらなる成長へとつなげていきたいと考えます。

新型コロナウイルスの世界的感染拡大により、我が国の政治や経済は大きな影響を受けました。それだけに、教育界全体において、これまで以上に社会の変化に主体的に関わって、困難を乗り越える力の育成が強く求められています。頑張ればできるというような単線的な価値観だけでは解決できない課題が多く見えています。そのことは、同時に「励ませば育つ。」「努力すれば成果が得られる。」という価値観の転換を迫るものでもあると言えます。この、混沌とした社会の中での、子どもたちの生きる力の育成は、「自分には現状を変える力があることに気付くこと」「自らの言動には責任が伴うことを実感すること」が大切ではないでしょうか。今井小学校では、今後も励まされることによってのみ行動するのではなく、自分が果たすべき役割に気付き、自ら判断して実行に移すことのできる子どもの育成を重視していきたいと考えます。

保護者の皆様、地域の皆様、今年度も大変お世話になり、ありがとうございました。お陰様で教職員一同、思いっきり教育活動に励むことができました。保護者の皆様や地域の方々と一緒に考え、共に子どもたちの成長を感じながら、一人ひとりにあった教育をより一層進めていきたいと考えています。